

## 研究主題 「知的障害養護学校高等部における教師の支援プログラムの研究

### - 手だてのシートと個別指導計画の形成的評価を生かした指導の改善 - 」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

東京都立葛飾養護学校 教諭 日高 浩一

#### I 研究のねらい

平成9年2月に「個別指導計画Q & A」が東京都教育委員会より発行され10年が経過した。都立盲・ろう・養護学校においては、担任が保護者の願いを取り入れながら定期的に個別指導計画を作成し、個に応じた指導を通じての評価を知らせるという手順が定着している。一方、目標と指導の手だての明確化や教師間での手だての共通理解についての課題がある。

知的障害養護学校高等部の学級担任をする中で、行動の記録や分析、教室環境の調整等を進め、個に応じた指導の充実を図ってきたが、その中で手だての共通理解のもちにくさがあった。そのことから教師間で手だてを評価し合い、共通理解を深める手順が必要であると考えた。

そこで本研究では、知的障害養護学校高等部において手だての改善と共通理解が進み、個に応じた指導の充実が図られるために「手だてのシート」を開発・活用し、「月ごとの個別指導計画」と連携させた形成的評価の手順や留意点を明らかにすることとした。

#### II 研究の内容と方法

<p>研究の仮説 「手だてのシート」と個別指導計画の形成的評価を活用することで、教師間の共通理解が深まり個に応じた指導の改善が図られる。</p>	<p>基礎研究 「手だてのシート」の開発と「月ごとの個別指導計画」を利用した形成的評価の手順の作成</p>	<p>実践研究（形成的評価の手順の検証） 対象生徒：都立知的障害養護学校高等部生徒 対象教師：「月ごとの個別指導計画」の立案者（メインティーチャー＝MT）と一緒に授業を担当する者（サブティーチャー＝ST） 形成的評価の手順：MTによる「手だてのシート」の活用と「月ごとの個別指導計画」（11月、12月）の作成・実施・評価、STによる手だての評価</p>	<p>研究のまとめ 研究の成果と今後の課題 形成的評価の活用の仕方と有効性</p>
--	---	--	---

#### III 研究の結果と考察

##### 1 「手だてのシート」の開発・活用

生徒の行動を分析し指導の手だての改善を図るために、「手だてのシート」を開発した。本シートは教師が新しい指導の手だてを行った際「生徒の課題に対する行動」と行動に影響を与えた「環境や直前の手だて」「直後の手だて」に分け具体的に記録できるようにした。また、記録の際にキーワードを入れて分類し、

カード化して蓄積することで整理しやすくした。そして、手だてを明確にした「月ごとの個別指導計画」に反映させ、個別指導計画を補うものとなるように修正・補完できるようにした。「手だてのシート」と「月ごとの個別指導計画」を活用した形成的評価は次の手順とした。

図1 手だてのシート

手だてのシート

カード化して蓄積する。

生徒名: \_\_\_\_\_ 年 組 \_\_\_\_\_

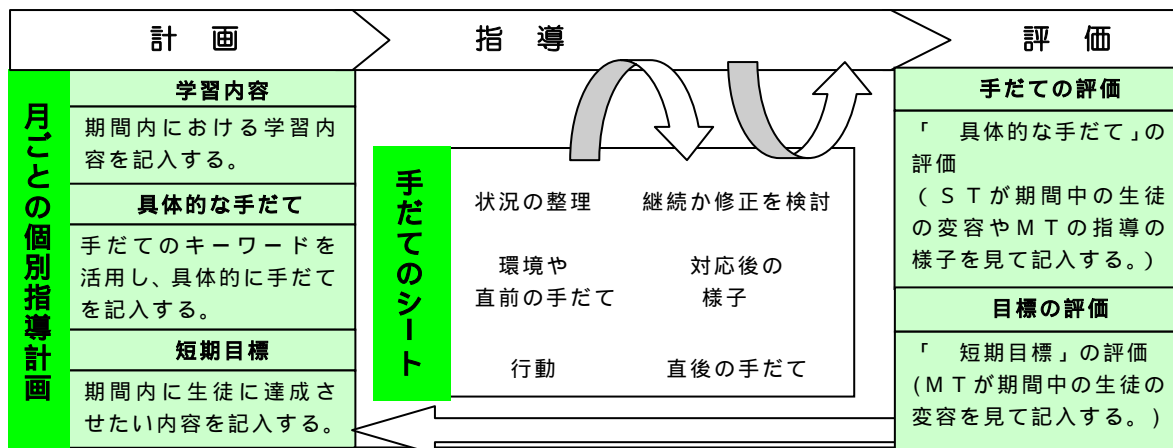
日時・場所	状況	環境や直前の手だて	行動	直後の手だて	対応後の様子
	手だてが必要とされる背景について記入する。	特定の人物や場所・時間などの環境や、行動が起こる直前の手立てを具体的に記入する。	行動を具体的に記入する。	行動に対してとった直後の手だてを具体的に記入する。	生徒の行動の変化と様子を具体的に記入する。

キーワードを入れて分類する。→  
 例：座席を廊下側に移動する。(環境の調整)

- 手だてのシートと個別指導計画の形成的評価を生かした指導の改善 - 」

まず、月初めに「月ごとの個別指導計画」を作成し、指導期間中は「手だてのシート」によって指導の手だての改善を図る。また、月末には「月ごとの個別指導計画」で評価を行い、次の月の計画につなげる。評価のポイントは「手だての評価」は計画の立案者(MT)ではなく、一緒に授業を行う者(ST)が評価し、教師間の共通理解を図るなどである。(図2参照)

図2 「手だてのシート」と「月ごとの個別指導計画」を活用した形成的評価の手順



\* 「月ごとの個別指導計画」は、国立特殊教育総合研究所の海津亜希子氏の「個別の指導計画」を参考にした。

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境の調整 (人物・場所・時間の調整、位置や時間を分かりやすく整理すること。)</li> <li>・ 教材の工夫 (個に応じた教材を実態に合わせて改良すること。)</li> <li>・ 課題の明確化 (見通しをもたせて、正答や正しい行動を導くこと。)</li> <li>・ モデリング (正しい手本を見せて、同じことをさせること。)</li> <li>・ 正の強化 (褒めたり、楽しみが後にくるように課題を設定し、次の活動に意欲をもたせること。)</li> <li>・ 社会的評価 (友達など周囲から評価されることで、次の活動への意欲をもたせること。)</li> <li>・ 自己強化 (自分自身に次の活動への意欲をもたせること。)</li> <li>・ 消去 (静観して、してほしくない行動だと伝えること。)</li> </ul>
-------	---

\* 「手だてのシート」とキーワードは、応用行動分析の「ABC機能分析」を参考にした。

## 2 形成的評価の手順の検証

9、10月の様子を見て、国語科において定期的な個別指導計画の目標達成が難しい生徒を対象とした。対象生徒の現状と課題は以下のとおりである。

生徒	現状と課題	保護者からの要望
高等部 生徒A (自閉症)	< 障害による特性 > 自分で決めた手順ややり方を変更されることを嫌い、心情面で指示内容を受け止めきれない傾向があり、学習の動機付けが難しい。 < 2学期の学習目標 > 漢字検定受検を目標にし学習に向かう意欲を高めた。 < 現状と課題 > 検定試験問題を模した教材を作成し、学習を行った。最初の時間に教師が解き方の手本を見せて説明した。その後は、毎時間に解答を添削し、正しい解き方を復習させた。漢字検定受検に向けての動機は高いが、時間内に解く問題数や正答数が伸びず学習指導の成果が上がらない。	家庭で充実した時間を過ごすために、宿題の習慣を付けてほしい。宿題をやるように強く言うと不安定になることも多いが、そのような関係を改善したい。

### (1) 11月: 「手だてのシート」の活用と「月ごとの個別指導計画」の作成・指導・評価

生徒Aの国語の個別課題に対する具体的な手だてとして、環境の調整と教材の工夫を挙げ、個別指導計画を作成した。具体的な手だてはキーワードによって分類した。

「月ごとの個別指導計画」(11月) 計画

学習内容	具体的な手だて	短期目標
個別課題 学習 (漢字)	< 環境の調整 > 学習時には机の位置を変更し、不要な視覚刺激を少なくする。 < 教材の工夫 > 予習用のノートに、文字がぶれないようにガイドの線を書き加える。へんとつくりを分けて書けるものも準備する。	・ 決めた課題の量を学校や家庭で毎回やりきる。 ・ 確認テストでは、合格点の7割の正解率を目指す。

指導期間中、新しい手だてを行った際は、シートを活用して手だてを評価・修正した。

「手だてのシート」

状況	環境や直前の手だて	行動	直後の手だて	対応後の様子
生徒は自席で個人課題に取り組んでおり教室内の動線が複雑だった。	<環境の調整> 内容により場所が分かれるように机を移動した。	周りを見たり、私語をしないで課題に取り組んだ。	<社会的評価> 集中してでき、時間内の解答数が増えたことを終了時に学級全体の前で評価した。	全体で評価され、学習へのやる気が出てきたと担任に話した。
ノートの罫線をずれて漢字の書き取りをしていた。	<教材の工夫> ノートに補助線を引き目安とした。	字が曲がらず、補助線に沿って字を書いた。	<正の強化> 見直すときに、読みやすい字を書いたことを評価した。	見直して、自分の書いた字が読めることを確認した。

「手だてのシート」を活用した結果、学習内容によって場所を分ける（環境の調整）、ノートに補助線を引き、字を書く目安とする（教材の工夫）などの指導の改善が行われた。

「月ごとの個別指導計画」(11月) 評価 (達成) (変化有) (変化無) を記入し、詳細は文章表記

手だての評価 (ST)	目標の評価 (MT)
<環境の調整> 課題に集中する時間は増えたが、解答数はあまり増えていない。成果を掲示し、視覚的に明らかにするなど意欲を向上させるために評価の方法を工夫することが必要である。 <教材の工夫> ノートでは小さな字を書き、一画一画が不正確であるので、教材の工夫が必要である。	自分で分かるところのみ解答し、分からないところは白紙で提出することが続いたことから量が多すぎたことが分かった。到達度に合った <u>一定時間内の課題の量から少しずつ増やしていく</u> ことを考えたい。 確認テストで合格点の5割の正解率である。

(波線\_\_\_\_\_は、「課題の明確化」について、手だてのシートと評価で形成的に生かした例)

月末の個別指導計画の評価では、課題に集中する時間は増えたが解答数が増えていないことや書く字が小さく不正確になっていることに対する手だての修正が課題となった。

(2) 12月: 「手だてのシート」の活用と「月ごとの個別指導計画」の作成・指導・評価

生徒Aの国語の個別課題に対する具体的な手だてとして、11月に課題とされた教材の工夫のほか、課題の明確化・社会的評価・自己強化を挙げ、個別指導計画を作成した。

「月ごとの個別指導計画」(12月) 計画

学習内容	具体的な手だて	短期目標
個別課題 学習 (漢字)	<教材の工夫> 文字の大きさのガイドの枠を入れたワークシートの作成する。 <課題の明確化> <u>課題の量とそれに取り組む時間を明確にする。</u> <社会的評価> 課題達成表を作り、同じ検定を目指す生徒を意識できるようにする。 <自己強化> 家庭でも生徒ができる量を分かるように連絡を取り合い、生徒が自分で設定した目標に取り組む形で宿題を定着させる。	・宿題が定着し、予習復習ができるようになる。 ・確認テストでは、合格点の7割の正解率を目指す。

指導期間中、新しい手だてを行った際は、シートを活用して手だてを評価・修正した。

「手だてのシート」

状況	環境や直前の手だて	行動	直後の手だて	対応後の様子
補助線に沿って字は書けるが、字が小さく一画一画が不正確であった。	<教材の工夫> 漢字の大きさのガイド枠を入れたワークシートを作成した。	正確な漢字が書けるようになってきた。	<正の強化> 一画一画が丁寧であることを褒めた。	丁寧に漢字を書くようになってきた。
時間内に問題をやりきることが課題だった。	<課題の明確化> <u>ストップウォッチを準備し自分で計時するようにさせた。</u>	決められた5分を計時しながら課題に取り組めた。	<正の強化> <u>時間を意識していたことを評価した。</u>	教師の評価を受け、次回も時間を意識することができると話した。

- 手だてのシートと個別指導計画の形成的評価を生かした指導の改善 -

自分のペースでやり、処理速度が上がらなかった。	<課題の明確化> 生徒個人の課題達成表を作った。	今日の達成した課題を記入した。	<社会的評価> 学習の最後に課題を達成したことを発表させた。	友達の評価を受け明日も課題達成を目指すと話した。
保護者から言われて宿題をやっていた。	自分でその日の目標を決めさせた。	自分で決めた目標通り、ページの半分を宿題でやってきた。	<正の強化> 保護者は、自分から宿題をやったことを評価した。	<自己強化> 家で自分から宿題をやるようになった。

「手だてのシート」を活用した結果、字の大きさのガイドを入れたワークシートを作成する（教材の工夫）、ストップウォッチを活用して課題に取り組ませる（課題の明確化）、課題達成表を作り授業の最後に全体で評価する（社会的評価）、家庭と課題の量や生徒への対応などで連携をとり自主的に目標を決めて宿題に取り組ませる（自己強化）などの指導の改善が行われた。

「月ごとの個別指導計画」(12月) 評価 (達成) (変化有) (変化無) を記入し、詳細は文章表記

手だての評価 (ST)	目標の評価 (MT)
<教材の工夫> 正確な字を書き、二回にやる課題の量が増えた。 <課題の明確化> 課題の量や取り組む時間の区切りが分かりやすくなり、生徒が見通しをもって自主的に取り組めるようになった。 <社会的評価> 同じ検定を目指す他の生徒と共に課題達成率が上がるのと同時に、それを共通の話題として生徒間の会話が増えてきた。 <自己強化> 生徒への言葉かけに配慮するなどの家庭の協力を得て、自分で立てた目標を守って宿題をやってくるようになった。	目標を自分で設定し、自主的にほぼ毎日宿題に取り組むようになり、家庭での親子関係が不安定になることも減った。適した字の大きさを練習しているかなどの学習の状況を把握できるようになり、手だての修正を細かくでき、得点率が6割まで上がってきた。

個別指導計画では「正確な字を書くようになった。生徒が自主的に課題に取り組むようになった。課題達成率が上がった。宿題をやるようになった。」などの生徒の変容が評価され、「手だてのシート」と個別指導計画の形成的評価を生かして指導の修正・改善を図ることができた。

### 3 研究の成果

#### (1) 手だてが多様になった

個別課題学習において定期的な個別指導計画での目標達成が難しい生徒に対して、2か月間「手だてのシート」を活用した。新しい手だてを行った際には、その日にシートに記録し、手だての評価・修正を行った。教材の工夫、環境の調整、課題の明確化、社会的評価、自己強化などの指導の手だての改善が図られ、個に応じた指導がなされた。

#### (2) 教師との連携に有効だった

「手だてのシート」を週に1、2回記録し、形成的評価を生かすことで、月ごとに個別指導計画を作成・活用して指導の手だてを改善していく過程を教師間で共有できた。また、「手だての評価」をサブティーチャーが行うことにより、教師間の指導の共通理解につながった。

#### (3) 保護者との連携に有効だった

「手だてのシート」によって検証された手だては連絡帳を通して家庭に知らせ、家庭では生徒の正確な現状を把握し良いところを認めるようになった。学校で友達から認められることと家庭での意欲をもたせる言葉かけの双方の効果が重なり、生徒の日常場面での行動変容が見られた。また家庭での様子は連絡帳を通して学校に伝えられ、学校での指導に生かされた。

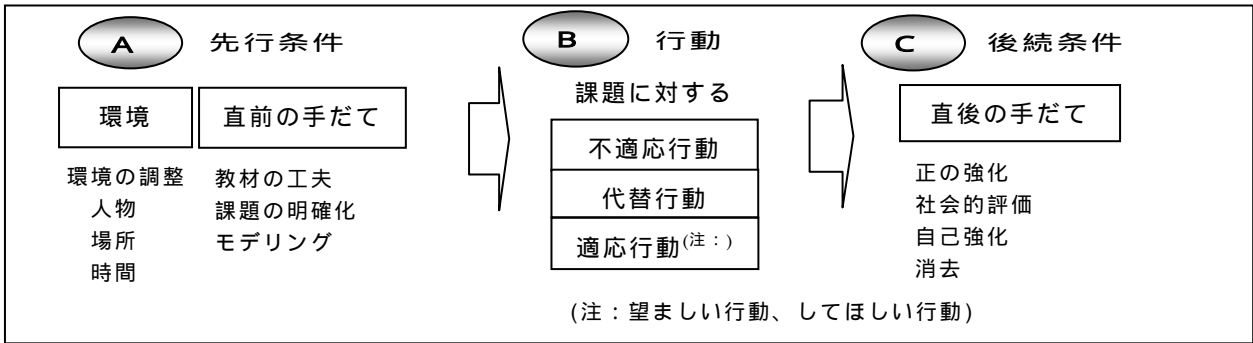
### IV 今後の課題

- ・書きやすさ、分かりやすさ、継続性の面で引き続き検証を行いながら、形成的評価の手順が一般化することによって、知的障害養護学校高等部の指導の充実が図れるようになること。
- ・「手だてのシート」の活用が有効な教科・指導内容を明らかにし、教材開発や指導形態の改善につなげていくこと。

資料 I 「ABC機能分析」と「手だてのシート」

A B C 機能分析とは、行動そのものと行動に影響を与えた環境や前後の手だてを分析して適切な指導を探る方法である。行動の前に影響を与えたものを先行条件、後にとった手だてを後続条件と呼ぶ。先行条件・行動・後続条件の英語の頭文字をとって A B C 機能分析と呼ぶ。

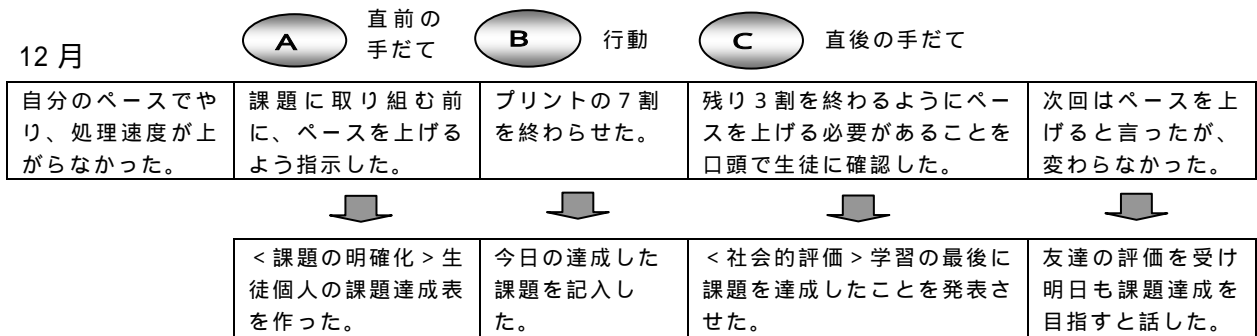
図 1 「ABC 機能分析」



1 「手だてのシート」の活用例 1 国語科「漢字の学習」

	環境・ 直前の 手だて <b>A</b>	<b>B</b> 行動	<b>C</b> 直後の手だて	
10月	朝の学習ではそれぞれが自席で個人課題に取り組んでおり、教室内の動線は複雑である。	他の生徒の声に反応し課題に取り組む手が止まった。	手を止めずに最後まで課題に取り組むように口頭で注意を与えた。	課題に取り組む手が止まることは、変化がなかった。
	↓	↓	↓	↓
	<環境の調整> 内容により場所が分かれるように机を移動した。	周りを見たり、私語をしないで課題に取り組んだ。	<社会的評価> 集中してでき、時間内の解答数が増えたことを終了時に学級全体の前で評価した。	全体で評価され、学習へのやる気が出てきたと担任に話した。
11月	ノートの罫線をずれて字の書き取り練習をしていた。	字が曲がらず、補助線に沿って字を書いた。	<正の強化> 見直すときに、読みやすい字を書いたことを評価した。	見直して、自分の書いた字が読めることを確認した。
	↓	↓	↓	↓
	補助線に沿って字は書けるが、字が小さく一画一画が不正確であった。	<教材の工夫> 漢字の大きさのガイド枠を入れたワークシートを作成した。	正確な漢字が書けるようになってきた。	<正の強化> 一画一画が丁寧であることを褒めた。
12月	1か月で30枚のプリントを終わることを目標とした。	プリントが1枚終わる日や半分の日がある。	次回は今よりも多く問題を解くように口頭で指示した。	日によって課題への取り組み方は違っている。
	↓	↓	↓	↓
	時間内に問題をやりきることが課題だった。	<課題の明確化> ストップウォッチを準備し自分で計時するようにさせた。	決められた5分を計時しながら課題に取り組めた。	<正の強化> 時間を意識していたことを評価した。
				教師の評価を受け、次回も時間を意識することができると話した。

- 手だてのシートと個別指導計画の形成的評価を生かした指導の改善 -



## 2 「手だてのシート」の活用例2 日常生活の指導「給食指導」

A 直前の手だて	キーワード	項目	・具体例	*配慮点
	教材の工夫	視覚的に指示を表わしたもの	・文字、絵、写真カードを時間割に利用する。	
		視覚的なヒント	・エプロンを付ける指示を文字や絵記号で表す。	
	課題の明確化	身の周りのもの	・食器やスプーンを見せる。	
		身ぶりや指さし	・食べるしぐさをする。	
		言葉によるヒント	・「エプロンを付けてください。」 *効果的だが、生徒は言葉に依存しがちになり、ヒントを減らすことが難しい。	
		位置によるヒント	・食堂に移動する。	
	身体的なヒント	・エプロンを生徒の体に付け、紐を結ぶことを促す。 *この方法は一見押し付けがましく見えるが、ヒントを減らしやすい。		
モデリング	手本を見せること	・教師が自分でエプロンを付けて見せる。		

B 行動	行動の種類	・具体例
	不適応行動	・エプロンを付けずに体育館へ行きボール遊びをする。
	代替行動	・エプロンの代わりにタオルを付けて給食の準備をする。
	適応行動	・エプロンを付けて給食の準備をする。

C 直後の手だて	キーワード	項目	・具体例	*配慮点
	正の強化	様々な場面で褒める。	・「給食の時間になったら、自分からエプロンを付けられたのは素晴らしいですね。」 *できたことを具体的に示しながら褒める。	
		苦手な行動の後に得意な行動を用意する。	・「エプロンを正しく付けたら、次はおいしい給食を食べましょうね。」 *これをやれば楽しいことができる、というポジティブなルールを作る。	
		課題や活動の楽しさを感じさせる。	・「紐が一人で結べるようになって、先生を待たなくても給食準備ができるようになったね。早く準備ができてうれしいな。」 *課題を行うことそのものが楽しい、達成できるとうれしい、と感じさせるようにする。教師の直接与える賞賛などを徐々に減らしていく。	
	社会的評価	成果をだれにでも見える形にする。	・「先生、Aさんが一番早く準備ができました。」 *成果を誰にでも見える形にし、生徒にフィードバックするとともに、周りの者が正の強化を与えるようになる。	
	自己強化	自分自身に次への意欲をもたせる。	・給食準備が早くできた日は、日記にシールを貼り、次回への意欲をもつ。 *設定された目標に対して、課題の遂行状況を記録・評価させる。	
	消去	計画的な静観をする。	・生徒が担任の顔をのぞき込みながらスプーンを自分の服に押し付けることに対して、生徒と顔を合わせないようにした。 *生徒が自分のどの行動に対して消去が実施されたのかを認識できるように明確な対応が重要である。	

\* 参考文献 2000「発達障害児者の問題行動」志賀利一著（エンパワメント研究所）2003「自閉症へのABA入門」シーラ・リッチマン著（東京書籍）2004「はじめての応用行動分析」P.A.アルバートほか著（二瓶社）2005「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一ほか著（図書文化）

資料Ⅱ 事例1の「手だてのシート」の「月ごとの個別指導計画」への反映例

\*「評価」は（目標が達成された）（目標達成に向け変化が見られる）（目標達成に向けあまり変化が見られない）を記入し、その詳細は文章で表記する。 で評価できるような具体的な目標とする。

生徒名	年 組	期間	11月1日～ 11月30日	記載者	(MT)	
朝の学習	個別課題学習 (漢字)	短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>決めた課題の量を学校や家庭で毎回やりきる。</li> <li>確認テストでは、合格点の7割の正解率を目指す。</li> </ul>	<p>自分で分かるところのみ解答し、分からないところは白紙で提出することが続いたことから一定時間内の課題の量が多すぎたことが分かった。到達度に合った量から少しずつ増やしていくことを考えたい。</p> <p>確認テストで合格点の5割程度の正解率である。家庭学習により予習を定着させる。また、見やすい文字の大きさやプリントのレイアウトの工夫が必要である。</p>	<p>具体的な手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;環境の調整&gt; 学習時には机の位置を変更し、不要な視覚刺激を少なくする。</li> <li>&lt;教材の工夫&gt; 予習用のノートに、文字がぶれないようにガイドの線を書き加える。へんとつくりを分けて書けるものも準備する。</li> <li>&lt;課題の明確化&gt; プリントを1冊の冊子にし、1回にやる量の指しを表紙に書いて渡す。</li> <li>&lt;正の強化&gt; 解答添削後、まず正答に対して評価を与える。</li> </ul>	<p>評価(S,T)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;環境の調整&gt; 課題に集中する時間は増えたが、解答数はあまり増えていない。成果を掲示し、視覚的に明らかにするなど意欲を向上させるために評価の方法を工夫することが必要である。</li> <li>&lt;教材の工夫&gt; ノートでは小さな字を書き、一画一画が不正確であるので、教材の工夫が必要である。</li> <li>&lt;課題の明確化&gt; 冊子にしたことで全体量が確認できるようにはなったが、1回の課題量が多く毎回最後まで終わっていない。宿題を与えることも必要である。</li> <li>&lt;正の強化&gt; 誤答に対して指導時間が少なく、知識が増えていない。</li> </ul>

生徒名	年 組	期間	12月1日～ 12月25日	記載者	(MT)	
朝の学習	個別課題学習 (漢字)	短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題が定着し予習復習ができるようになる。</li> <li>確認テストでは、合格点の7割の正解率を目指す。</li> </ul>	<p>自分で設定し自主的にほぼ毎日宿題に取り組むようになり、家庭での親子の関係が不安定になることも減った。</p> <p>詳しく学習の状況を把握できるようになり、手だての修正を細かくでき、正解率が6割まで上がった。</p>	<p>具体的な手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教材の工夫&gt; 文字の大きさのガイドの枠を入れたワークシートを作成した。</li> <li>&lt;課題の明確化&gt; 課題の量とそれに取り組む時間を明確にする。</li> <li>&lt;社会的評価&gt; 課題達成表を作り、同じ検定を目指す生徒を意識できるようにする。</li> <li>&lt;自己強化&gt; 家庭でも生徒ができる量を分かるように連絡を取り合い、生徒が自分で設定した目標に取り組む形で宿題を定着させる。</li> <li>&lt;環境の調整&gt; 検定までの日数を、日めくり式にして掲示した。</li> </ul>	<p>評価(S,T)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教材の工夫&gt; 正確な字を書き、一回にやる課題の量が増えた。</li> <li>&lt;課題の明確化&gt; 課題の量や取り組む時間の区切りが分かりやすくなり、生徒が見通しをもって自主的に取り組めるようになった。</li> <li>&lt;社会的評価&gt; 同じ検定を目指す他の生徒と共に課題達成率が上がるともに、それを共通の話題として生徒間の会話が増えてきた。</li> <li>&lt;自己強化&gt; 生徒への言葉かけに配慮するなどの家庭の協力を得て、自分で立てた目標を守って宿題をやってくるようになった。</li> <li>&lt;環境の調整&gt; 検定までに残された時間を意識するようになった。</li> </ul>

資料Ⅲ 本シートを試行した教師の所見(考察)

- 1 取り組みの効果、有効性について
  - (文章化)
    - ・周囲と共通理解するためには、文章化されていれば時間をとらない。
    - ・生徒の活動で見たことを忘れず文章化し、読み返すことで課題に気付くことができる。
  - (共有化)
    - ・全体に浸透していけば、情報交換の場として生徒を把握する良い取り組みとなる。
    - ・生徒の実態に対する教師の目標設定がよりの確なものとなる。
  - (一般化)
    - ・試行での成果があった。全体に広げることが課題である。
    - ・試行ではうまく活用できていないが、シートの使用が進めば効果が期待できる。
    - ・「手だてのシート」だけでは分からない要因もある。
- 2 指導の手だてについて
  - ・担任間で指導の手だてや方針が明確になり指導の共有化が図れる。
  - ・指導の手だてについては、画一的になってしまうと有効性が薄れる。
- 3 負担感や一般化することについて
  - (負担感無し)
    - ・シートは簡単に記録がとれ、日々の記録はさほど負担ではない。まとめ方の工夫が課題である。
  - (負担感有り)
    - ・個別指導計画が複雑になり作成に時間をとられるという負担感の程度が課題である。
- 4 個別指導計画への活用について
  - ・月ごとの個別指導計画は、生徒の変容に応じて2週間程度の実施でも効果が認められる。
  - ・月ごとの個別指導計画は慣れが必要だが、指導のポイントは明確になった。
- 5 連携について
  - (教師間)
    - ・話し合いのポイントが明確になり、教師間のコミュニケーションは活性化する。
    - ・教科担当と学級担任が連携するのに有効である。
    - ・教師間で手だてを相談して指導にあたり、実態を把握する仕方を共有、共感して生徒支援ができる。
  - (保護者・家庭)
    - ・宿題が定着し遅刻も減り、生徒の主体性に結び付いた。
    - ・生徒が自発的に宿題に取り組む姿を見て、保護者は積極的に担任の指導を受け止めるようになった。
    - ・保護者との連携の有効性を判断するには試行期間が短い。
- 6 特記できる点、重点事項
  - ・特に不適応行動への指導には有効である。

資料Ⅳ 単元の指導計画と月ごとの個別指導計画の関係

単元の指導計画と手だてのシート・月ごとの個別指導計画を活用した手順を教師の共通理解という観点で整理し、関係を表した。(図2)

授業の中で評価を実施して教師の共通理解を図りながら指導を行った成果を、教科担当と担任が共有化していくことが必要であると考えます。

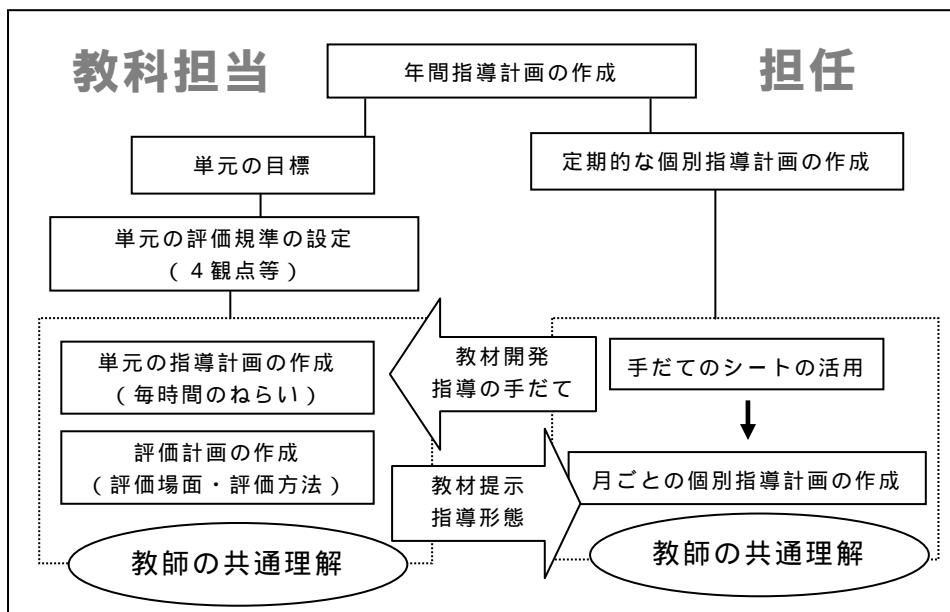


図2 単元の指導計画と月ごとの個別指導計画の関係